

ESD後潰瘍に対する完全縫縮法

ESDにより以前は切除できなかった大きな病変でも一括切除が可能となった。内視鏡的切除後には後出血や遅発性穿孔等の偶発症を生じることがあるため、ESD後潰瘍面に対しても予防的に縫縮することがある。しかし、病変が大きい場合は合併症のリスクが高いにも関わらず、技術的に完全縫縮が困難である。我々は、広範な粘膜欠損部の縫縮を可能とする器具として“Loop Clip”を考案した⁵⁾⁶⁾。

Loop clip

Loop clipは図のようにZEOCLIP®の先端の穴の部分にナイロンループをつけた簡単なものである(Figure5)。内視鏡の鉗子口をスムーズに通過することができるため、内視鏡を抜去し、再挿入する必要がないため、病変の部位に関係なくどこでも使用することができる。

Loop clipの用法

1. ESD後潰瘍の辺縁、近位側の中心部分にLoop clipをしっかりと装着する(Figure6-a)。
2. 次に通常のZEOCLIP®を挿入し、Loop clipのループ部分を引っ掛ける(Figure6-b)。
3. ループ部分を引っ掛けたまま、潰瘍対側の正常粘膜にZEOCLIP®を装着する。
これにより創部を引き寄せることができる(Figure6-c)。
4. 次にLoop clipの近傍、または潰瘍の端の部分から順次ZEOCLIP®で縫縮し、完全縫縮する。
5. 実際にLoop clipを用いた縫縮症例を提示する(Figure7-a,b,c,d,e)。

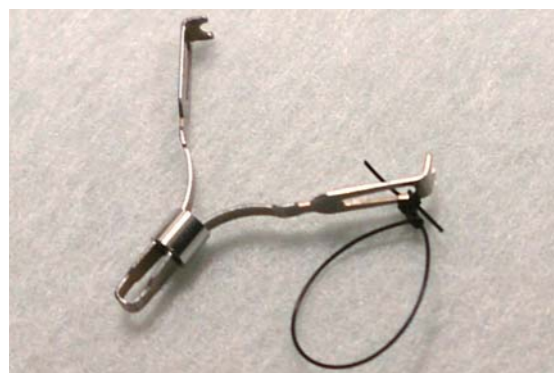


Figure5

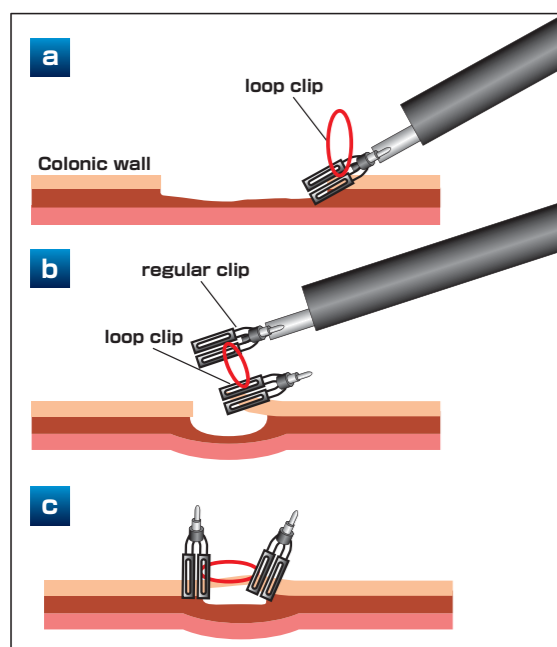


Figure6

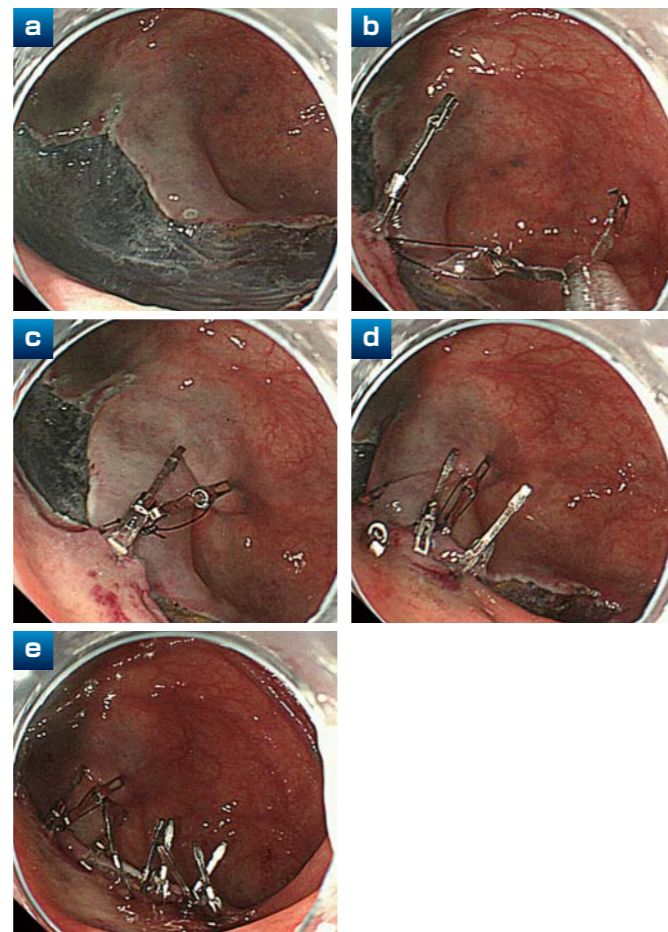


Figure7



※ZEOCLIP®のご使用に際しては、付属の添付文書を必ずお読み下さい。添付文書以外の使用方法については保証致しません。

製造販売元

ゼオンメディカル株式会社

[本 社] 〒105-0011 東京都港区芝公園2-4-1
TEL.03-3578-7724 FAX.03-3578-7749
URL: <http://www.zeonmedical.co.jp>

0514010(IM01)

XIEM
EX

Fusion

When a new idea meets
ZEOCLIP® technology



ESDにおけるトラクション法

Juntendo University Hospital

Dr. Naoto Sakamoto

×

Dr. Taro Osada

